

平成30年度地域づくり国内調査報告書

「どこにいてもできる仕事、
ここでしかできない暮らし」
～クラウドソーシングを活用した
奄美市の新たな仕事機会創出の取組～

地域創生総務課 菅谷内 梓

移住・交流推進課 植田 賢

移住・交流推進課 左右田 慎也

1. はじめに

日本は、少子高齢化による急速な人口減少という危機に直面している。2040 年にかけて生産年齢人口の減少が加速し、特に地方においては東京圏への若者の流出が止まらず、地方の多くが一層衰退すると危惧されている。

「東京一極集中」に歯止めをかけるためには、地方に「しごと」を作り、新しい「ひと」の流れをつくる必要があるとあり、全国の自治体が UIJ ターンによる起業・就業の促進など様々な事業を実施している。そのような中で近年注目を集めているのが、クラウドソーシングを活用した就業機会の創出である。

2. クラウドソーシングを活用したフリーランスの働き方

クラウドソーシングとは、仕事を発注したい企業と仕事を受注したい個人をオンライン上でマッチングするウェブサービスで、人材の「スキル」を共有するシェアリングエコノミーの一種である。

内閣官房情報通信技術総合戦略室シェアリングエコノミー促進室によると、シェアリングエコノミーがもたらす効果の一つに「個人の市場参加、柔軟な働き方、起業を含めたキャリア選択肢の多様化」があるという。シェアリングエコノミーは個人の遊休資産や能力を簡単に市場に投入できるメカニズムとして機能するため、これまで市場の外にいた専業主婦や高齢者などが市場に参加して稼ぐ機会が得られる。また、副業として二枚目の名刺を持つ会社員やフリーランス(※)など、ライフステージに合わせた柔軟な働き方が可能になる。

近年注目を集めているクラウドソーシングの仕組みは、働き手側がスキルをオンラインのマッチングプラットフォームに登録し、雇用側は個々のプロジェクトや案件に必要な人材を募集し、条件に合う人材が見つければ、契約を締結するというものである。これにより、雇用側は迅速に安価で様々なスキルをもった人材を雇うことができ、働き手側は様々な案件にスキルを活かすことができる。

クラウドソーシングを活用して在宅で仕事をするフリーランスは、育児や介護で自宅から離れられない人や空き時間を活用したい人にとって柔軟に働くことができる就業形態であり、地域で生活をしながら首都圏の巨大マーケットなどから仕事を確保することができるため、地域に就業機会を創出し、地域を活性化するカギになる。

※フリーランス：企業に属さず働く人。個人事業主、従業員 4 人未満の新規事業者も含む

3. 調査地の選定

鹿児島県奄美市では、大規模企業がなく雇用の受け皿が不足している中で、通信環境を整備し、クラウドソーシングの活用による仕事機会の創出と子育て世代の在宅ワークの支援を行っている。こうした取組により、平成 29 年には一般社団法人シェアリングエコノミー協会の「シェアリングシティ」に認定され、平成 30 年には内閣官房シェアリングエコノミー促進室が地域における社会課題解決や経済活性化のためにシェアリングエコノミーを活用した全国の実践事例をまとめた「シェア・ニッポン 100～未来へつなぐ地域の活力～」にも取り上げられている。

そこで、奄美市の取組からクラウドソーシングを活用した地理的制約を超えた働き方の拡大可能性について考察していきたい。

4. 鹿児島県奄美市の取組

(1) 奄美市の概要

奄美市は、鹿児島県本土の南西にある奄美群島の北部に位置しており、亜熱帯海洋性気候のため四季を通じて温暖な地域である。また、面積の約 8 割は森林であり、豊かな生態系やありのままの自然、美しい海岸線等を有することから、観光地としても人気を博している。

項目	内容
人口 ※	43,353 人
面積	308.27 km ²

※平成 30 年 11 月 30 日現在

(2) フリーランスが最も働きやすい島化計画

奄美市は、本土から遠隔に位置しており、移動コストや物流コストが嵩むことに加え、亜熱帯気候による台風の常襲地帯であるため、大企業等の誘致が難しい地域である。そのため進学・就業の際に、市内の子供たちの島外への流出による人口減少の進行が問題となっている。しかし一方で、腕の良いエンジニアや職人の UI ターン者や、クラウドソーシングで仕事を受発注し、フリーランスとして働く人が増えている。

奄美市では、こうした人達が増加している現状を踏まえて、フリーランスや小規模事業者を支援することにより、市内での仕事機会の創出や定住促進、さらには、在宅ワークの支援を行うことにより子育て支援につなげることを目指す「フリーランスが最も働きやすい島化計画」を 2015 年に策定した。なお、本計画の 2020 年までの達成目標は次の 4 つである。



- ①フリーランス 200 人の育成
- ②フリーランス 50 人の移住

③子育てしながら年収 150 万円のフリーランス育成

④年収 300 万円のフリーランス育成

(4) フリーランスが最も働きやすい島化計画の取組内容

上記の目標を達成するための具体的な取組として、大きく分けて次の二つが挙げられる。

①フリーランスが働きやすい環境の整備

一つ目は、インターネット環境の整備等のフリーランスが働きやすい環境の整備である。本計画策定以前の奄美市では、光ブロードバンドが市内の一部にしか整備されておらず、フリーランスとして働く人からも環境整備の要望があったという。そこで、奄美市では、NTT 西日本と協力して光ブロードバンドの整備を行い、平成 30 年度中には市全域の整備を完了する予定である。

さらに、奄美市では、情報通信産業の企業・仕事誘致の推進及び地元企業の育成を目的とした拠点施設として「奄美市 ICT プラザかさり」を設置している。当施設は、企業入居スペースと創業支援オフィスなどを備えており、高速インターネット回線やデータ管理を意識したセキュリティ環境も整えられている。企業入居スペース全 7 室は、取材日時点（平成 30 年 9 月 19 日）で 6 室が IT 系ベンチャー企業を中心に利用されており、様々なメディアを通じて I ターン誘致の宣伝も行われている。

当施設の産業創出プロデューサーである勝眞一郎氏によると、入居している企業同士の交流を兼ねて月に一度開催している定例ミーティングにより、企業同士が連携した新たな事業も生まれているとのことである。また、当施設には、別館としてコワーキングスペースが併設されており、出張者等にも重宝されているという。



かつ しんいちろう
勝 眞一郎氏

奄美市産業創出プロデューサー
奄美市の出身であり、現在は奄美市と神奈川県東京都二拠点居住中。大学院を卒業後、機械製造業に 18 年勤務し、モノづくりの現場で、経営、設計、製造、物流、情報システムと広範囲な活動をグローバルな舞台で実践。情報システム部門のトップを務めてきた経験から、実践的なプロジェクトマネジメント論を次世代に向け伝授している。奄美市の多くの施策に参画し、「フリーランスが最も働きやすい島化計画」の策定にも携わる。東京都では、2007 年からサイバー大学 IT 総合学部教授として活躍されている。

②フリーランスへの支援

二つ目は、フリーランスに対する様々な支援事業である。

フリーランスが安定した収入を得るためには、定期的な仕事の獲得と自らのスキル向上が必要である。そこで、奄美市では、日本最大級のクラウドソーシングサービス「Lancers」を運営するランサーズ株式会社と提携した。これにより、ランサーズ株式会社からは、フリーランスとしての仕事の仕方や時間の管理法などの指導に加え、企業単位の仕事の配分を優先的に受けるなどの効果を上げている。さらに現在では、日本最大級のハンドメイドマーケット「minne」を運営する株式会社 GMO ペパポや写真やイラストなどのデジタル素材の

オンラインマーケットプレイス「PIXTA」を運営する株式会社ピクスタ、最先端の IT スキルなどのオンライン動画学習サービスを運営する株式会社スクーの三社とも提携をしている。

提携企業が増加するほど、より多様な業種のフリーランスへの支援が可能となるが、その反面、管理する市の負担も増加してしまう。そこで奄美市では、より効果的な支援サービスを行うため、市内の企業「株式会社しーま」との連携を開始した。

同社は、奄美市出身の深田小次郎氏により「島の発展は情報量に比例する」との考えのもと、島民全員が記者となり、カメラマンとなって情報発信できる、奄美群島に特化したブログサービスを提供する会社として設立された。現在では、「情報発信によりヒト・モノ・コトを繋げ、島の発展に貢献する」を企業理念として、年間 4 万部を発刊する「月刊奄美」や、島内の食情報を提供する情報誌「みしょらんガイド」の作成などを行っている。

同社のフリーランスへの支援は、奄美市から受託業務として、フリーランスと各提携企業の間に入り、各フリーランスのライフスタイルに合わせた仕事の紹介を行うといった調整役に加え、フリーランスのスキルアップや育成を図ることを目的とした「フリーランス寺子屋」の運営である。

フリーランス寺子屋では、提携企業からの紹介者や島内外で活躍する様々な方を講師に招き、平成 30 年度はライティング

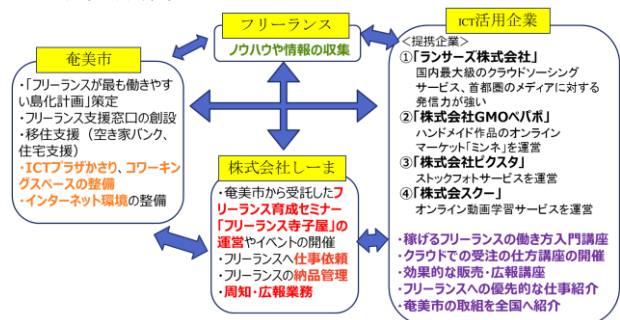
講座、観光フォトライター講座、ハンドメイド講座など全 10 講座を開催している。開講から 3 年間で卒業生は 126 名になり、卒業生の中にはメディアに取り上げられる稼げるフリーランスも誕生しているという。また、寺子屋の効果としては、フリーランスとしてのスキルアップだけではなく、フリーランス同士の交流も挙げられる。深田氏によると、フリーランスは仕事の性質上、他者とのつながりが薄くなりやすいとのことである。そのため、株式会社しーまでは、悩みの共有や仕事の情報交流の場として、「フリーランスカフェ」などの卒業生同士の交流会も開催している。卒業後も共に学んだ仲間と触れ合えるのもフリーランス寺子屋の強みと言えるだろう。

また、卒業生の中には、寺子屋で学んだスキルを活かして奄美大島の観光 PR 記事を作成している者もいるという。このように、単にフリーランスの育成を行うだけでなく、島の観光振興を担う人材の育成にも繋がるという点も本事業の大きなメリットである。

5. フリーランスの実践者への取材

我々は、奄美市で実際にフリーランスとして働く二名の方に取材を行った。

※各関係機関のイメージ図



(1) 武 美緒 氏

武氏は、奄美市の出身であり、知人の紹介でフリーランス寺子屋に参加し、記事の書き方や写真の撮り方を学んだ。平成 30 年 4 月から、フリーライターとして活動中で、観光関係など様々な記事を作成している。

武氏によると、フリーランスとして働くメリットの一つとして、スケジュールが自由に管理できる点が挙げられるとのことである。武氏は、一つの記事の作成に 3 日間をかける。1 日目は記事の対象とする事柄について調査して内容をインプットし、残りの 2 日間をかけて文字に起こす。こうしたスケジュール管理を、自身のスキルやライフスタイルに合わせて調整できるのである。

デメリットとしては、仕事量により影響されてしまう不安定な収入と、高いスキルを今後も磨き続けなければ仕事が来なくなるという重圧が挙げられるとのことである。しかし、その一方で自身が作成した記事が掲載され、記事の読者から様々なコメントが得られるなど、自身の仕事に対する評価が直接見えることは、やりがいや、スキル向上の動機付けにも繋がっているという。

また、株式会社しーまから紹介された仕事については、案件をみってから受注するか否かを選ぶことができ、自身を書きたい記事の内容についても提案できるため、株式会社しーまとは良い関係性にあるとのことである。さらに、株式会社しーまが主催している「フリーランスカフェ」は、他のライターと悩みを共有できるため、非常に良い機会になっているという。



(2) 増田 珠美 氏

増田氏は、結婚を機に大阪府から奄美市へ移住。幼少期から手作りの小物作りが好きであったこともあり、ハンドメイドブランド「FUETA」を立ち上げ、奄美市の伝統工芸品である大島紬を使用した小物等を製作している。平成 30 年 2 月には、奄美市で開催された「第 2 回あまみハンドメイド



ますだ たまみ
増田 珠美 氏への取材風景 (写真左)

大賞」で「大賞」と「オーディエンス賞」をダブル受賞した。店舗での販売に加えて、イベントやインターネットにおいても作品の発表や販売をしており、月に約 20 万円の収益を上げている。インターネット販売に関するノウハウは、フリーランス寺子屋で習得したとのことで、特に「minne」(ハンドメイドマーケット)の販売効果は高いという。

増田氏によると、フリーランスとして働く上で大変なことは、主婦業との両立とのことである。注文数が多くなればなるほど、家族と接する時間が少なくなってしまう、子ども達にも寂しい思いをさせてしまうことが気がかりであったと言う。しかし、増田氏の作品に子どもたちが誇りを持ってくれたり、作品を作ることを応援してくれたことが大きな支えになったとのことである。こうした家族の支えも、フリーランスとして働く上で重要な要素になると思われる。

6. 成果・課題

フリーランスの育成状況については、上述のとおりフリーランス寺子屋を 3 年間で 126 名の人たちが卒業しているが、受講生にはある特徴がみられる。それは、フリーランスとして働いていた人やフリーランスを目指して移住した人に加え、以前から奄美大島に暮らしている島民も受講し、フリーランスとして活躍している点である。これは、新たな仕事機会の創出に繋がったということであり、「雇用の受け皿の確保」という奄美市の課題を解決するための本取組の大きな成果の一つといえるだろう。

しかし、フリーランスとして働く上での課題も見られる。それは、フリーランスのみの収入で生活するのは難しく、多くの人がフリーランスの仕事を副業としている点である。フリーランスを本業とするためには、安定した仕事量の確保とより良い報酬を得ることが必要となるが、そのためには高度な仕事のスキルが求められる。そのため、奄美市では、フリーランス寺子屋において、一層「稼ぐ」ことにつながるスキルアップのための講座や、より付加価値の高い仕事の提案をできるようになる講座の実施が重要であると考えており、今後はフリーランスが自走できる仕組みづくりに取り組みたいとのことである。

7. おわりに

人口減少社会、東京一極集中が進む中で、就業機会や環境の面の「魅力」を作り出すことにより、都市から地方への「人の流れ」をつくり人口を確保していくことは、今後、すべての地方において課題となるものである。

これまでであれば、企業や工場などを誘致して人を呼び込むといった取組が一般的な手法であった。しかし、インターネットを活用した新しいビジネスの発展、日本の製造業の相対的地位の低下、製造業の労働集約型から資本集約型への移行などにより、企業や工場を誘致できず雇用を生み出せていない状況が全国各地で見受けられる。

また、近年の東京への一極集中に伴い、地方では仕事の選択肢が乏しくなり、実質的に受け皿が不足している状況である。

こうした状況の中で奄美市は、「どこにいてもできる仕事、ここでしかできない暮らし」

をキーワードとして掲げ、「仕事」と「暮らし」を二本柱として取り組んでいる。

「暮らし」については沖縄の離島に負けない透明度のある海や世界遺産の登録候補ともなった金作原の森など、豊かな自然環境を押し出し、「仕事」については、インターネットを活用したクラウドソーシングといった新しい分野に着目し、官民連携により、それらを活用した仕事ができるような環境を整備している。行政は「全市域光ファイバーブロードバンドの整備」「コワーキングスペースの整備」といったハード面を、民間はフリーランス寺子屋での人材育成やフリーランスのネットワーク化といったソフト面を担当し、それらを民間出身の産業創出プロデューサーがつなぐといった得意分野に応じた効率的な分担が行われていることから、短期間でフリーランスの育成や移住が実現しているのではないかと考える。

奄美市は外海離島であり、当初より企業や工場の誘致が難しかったことが逆に功を奏して、仕事の面での「魅力」づくりに取り組む余地があったといえる。

価値観が多様化している現代では、自治体は各々の地域特性に合った取組を考え実行していくことが必要である。本調査が、奄美市のような先進的な自治体に続き、新たにクラウドソーシングなどを活用して「魅力」づくりを行う自治体の参考になれば幸いである。

本調査へのご協力をいただいた全ての方にお礼を申し上げる。